

博多祇園山笠の願い



福岡市消防局長 牧田 哲治

福岡市は、「生活の質の向上」と「都市の成長」の好循環を創り出すことを都市経営の基本戦略として掲げ、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」をめざして、まちづくりを進めています。昨年12月には、多くの市民の意見を取り入れた「第10次福岡市基本計画」を策定し、この計画に基づいて、スピード感をもって施策を展開しています。

福岡県西方沖地震から20年を迎える中、福岡市都心部においては、規制緩和を活用した官民連携のプロジェクトである「天神ビッグバン」や「博多コネクティッド」により、耐震性に優れた先進的なビルの建替えを着実に進め、市民や働く人、訪れる人の安全・安心の確保につなげるとともに、まちが生まれ変わるこのタイミングで、都心部に緑を積極的に取り入れ、多くの市民や企業から選ばれるまちづくりに取り組んでいます。

その博多のまちも、7月には「博多祇園山笠」の熱気に包まれます。7月1日、博多人形師による精緻な装飾が施された高さ約10メートルの「飾り山笠」が市内13カ所に設置され、祭りの始まりを告げます。そして7月15日午前4時59分、神々しい雰囲気の中で、「追い山笠」が博多のまちを駆け抜け最高潮を迎えます。

博多祇園山笠は、仁治2年（1241年）に承天寺の聖一国師が施餓鬼棚（せがきだな）に乗って祈祷水をまいたことに由来すると言われており、780年以上の伝統を重ねています。疫病退散や無病息災を願うこの行事は、単なる伝統にとどまらず、地域の連携や防災意識の礎ともなっております。

都市の成長や全国での自然災害の頻発化・激甚化を踏まえ、福岡市消防局では消防・救急体制の充実強化に取り組んでいます。現在、福岡市消防学校では、住宅密集地や倉庫内での火災を再現可能な「火災・特殊災害訓練施設」や水害や土砂災害などに対応する「自然災害訓練施設」の新設に向けた設計を進めております。また、まちづくりが進展し人口の増加が見込まれるアイランドシティおよびその周辺地域では、今後の消防・救急需要に的確に対応するため、新たな消防出張所の整備に着手しました。さらに、福岡都市圏約265万人からの119番通報に対応する「福岡都市圏消防共同指令センター」のシステムも全面更新を進めており、良好な通信体制の構築をめざしています。

火災予防関係においては、消防署への来庁が不要なノンストップ行政の実現に向けた取組みも積極的に推進しています。申請手続きはすべてオンラインで対応可能となり、許可書等の電子交付にも対応しました。甲種防火管理新規講習をはじめとした5つの講習では、対面に加えてオンデマンド方式のオンライン講習も導入し、受講料のキャッシュレス決済や、電子署名を活用した修了証の交付により、「オンライン完結」を実現しました。DXによる利便性の向上を図り、より多くの方に講習を受講していただけるよう利用促進を図っていきたくと考えております。

博多祇園山笠の由来である「疫病退散」にもあやかり、日々それぞれの地域で住民の命と暮らしを守る全国の消防職員の皆さまにも、健やかで爽やかな日々が続きますことを心より願っております。

そして、私たち一人ひとりが力を合わせ、災害に強い安全・安心な社会の実現に向けて、ともに歩んでまいりましょう。



飾り山笠



追い山笠